

財務報告実務検定 講義録

科目

コース

財務報告実務
セミナー

回数

4

配布物

★補助レジュメ : (あり)

★その他のレジュメ : あり

ページ数 / 3p) なし

ページ数 p) なし

◇配布物なし

講師

茂田井

先生

テキスト
ページ

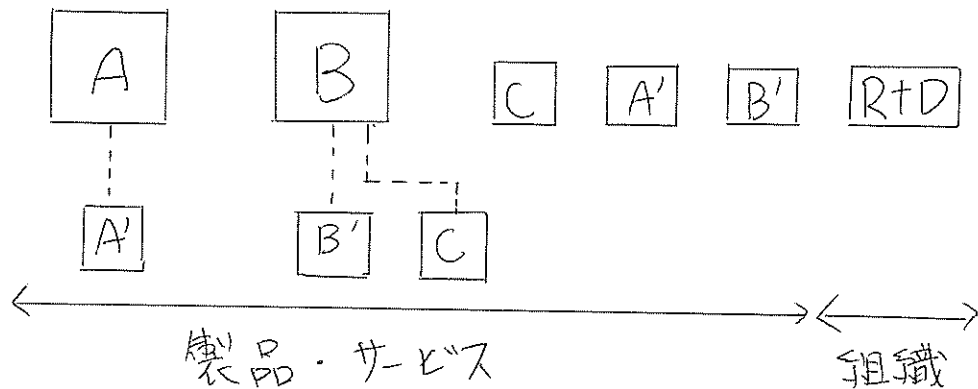
黒板内容

財務報告実務検定 セミナー 第4回

「実践！セグメント情報の作り方と

セグメント変更への準備」

・いかに集約するか？



XXセグメント

・A事業

・B事業

OOセグメント

・C事業

・B事業

・富士通

・IHI

3【事業の内容】

当社は、ヒトiPS細胞及びヒトES細胞の技術を基盤とした(1)iPS細胞事業と、臓器移植等に係わる(2)臨床検査事業を展開しております。

また、iPS細胞事業に関する製品群は研究試薬製品と細胞製品の2つに大きく分けられます。

事業の概要は以下のとおりであります。なお、次の2事業は「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業内容	区分	内容
iPS細胞事業	研究試薬製品	ヒトES/iPS細胞の研究に必要な、培養液、剥離液、凍結保存液、コーティング剤(*）、抗体(*)など、ヒトES/iPS細胞に最適化された各種研究試薬の製造販売を行っています。
	細胞製品	ヒトiPS細胞から、心筋、神経、肝臓などの様々な細胞を作製し、専用培養液やコーティング剤とともに、主に製薬企業に販売しています。これらの細胞製品は、製薬企業において、新薬候補化合物の薬効試験や毒性試験の実験材料として使用されます。また、同細胞を利用して、薬効試験や毒性試験を当社内で実施する受託サービスを提供しております。
臨床検査事業		臓器移植及び造血幹細胞移植で必要とされる臨床検査に特化した検査受託サービスを提供しています。具体的には、対象顧客である医療機関から血液や血清などの検体を当社の衛生検査所に搬送し、検査を実施するというものです。受託方法には、医療機関からの直接受託と他の検査会社を経由した再受託の両方があります。

(1) iPS細胞事業

a. 事業環境

ヒトの体は60兆個以上、200種類以上の細胞で構成されていると言われています。ヒトは、もともとは1つの受精卵から始まり、分裂、増殖を繰り返しながら、神経細胞、心筋細胞、肝細胞など、成体を構成する様々な細胞に分化（変化）していきます。我々の体の中には、このように最終的に分化した細胞と分化途上の細胞が存在しており、前者を体細胞(*）、後者を体性幹細胞(*)と言います。

体性幹細胞としては、造血幹細胞、神経幹細胞、間葉系幹細胞などがあり、これらは、限定された範囲内でのみ各種の細胞に分化することができます。例えば、造血幹細胞は、骨髓に多く存在することが知られており、白血球や血小板など全ての血液系細胞を作り出していますが、神経などの異なる細胞種には分化しません。

一方、体性幹細胞よりも未熟な細胞として、胚性幹細胞（通称、ES細胞：Embryonic stem cell）があります。ES細胞は、受精卵から1週間ぐらい経過した胚盤胞という状態の内部の細胞塊を取り出したもので、心筋、神経、肝臓、血液など理論上は体内の全ての種類の細胞に分化することが可能です（これを多能性と言います）。体性幹細胞は限られた範囲内でしか分化できないのに対し、ES細胞では分化できる範囲が格段に広いのが大きな特徴です。また、ES細胞は、培養器内で、1週間で約10倍、2週間で100倍、3週間で1,000倍というように、長期の大量培養が可能です。一方、我々の体を構成する様々な細胞（体細胞及び体性幹細胞）では、増殖能力に限界があり、正常な状態を維持しながら長期培養することは困難です。このように、ES細胞は、多能性と高い増殖性という2つの大きな特徴がある特異な細胞であり、学術的には「多能性幹細胞」、通称「万能細胞」と呼ばれています。

ES細胞はインフォームドコンセント(*)を取得した上で、不妊治療の過程で不要になった余剰胚から作製しますが、受精卵を使用することに関して各国で様々な倫理的議論がされています。このような背景の中、受精卵を使用しない新たな「万能細胞」を京都大学の山中伸弥教授が発明されました。

平成18年、山中教授は、マウスの皮膚細胞に4つの遺伝子を導入することで、マウスES細胞と同様の性質を有する新しい細胞を作製することに成功しました。さらに、翌平成19年にはヒトの皮膚細胞からも同様の細胞を得ることに成功し、一躍世界の脚光を浴びることになりました。この新しい細胞は、人工多能性幹細胞（通称、iPS細胞：induced pluripotent stem cell）と名付けられ、新たな「万能細胞」と位置づけられています。iPS細胞はES細胞とほぼ同等の性質を持っています。つまり、心筋、神経、肝臓、血液など様々な細胞に分化する能力を持ち、さらに培養器内で大量に増殖することが可能です。iPS細胞は受精卵を使用せず作製可能であるため、世界中で研究が急速に進むことになりました。

当社は、ES細胞及びiPS細胞に関して保有する様々な知財・ノウハウ等を強みとして、研究試薬製品や細胞製品などの事業を行っています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、ヒトiPS細胞及びヒトES細胞の技術を基盤とした製品・サービスに関する事業活動を国内外で展開しております。また、臓器移植や造血幹細胞移植における臨床検査を国内において行っております。

したがって、当社は、「iPS細胞事業」「臨床検査事業」の2つを報告セグメントとしております。

「iPS細胞事業」はヒトES/iPS細胞の研究に用いる研究試薬の製造販売及びそれらを用いた細胞の作製、評価を行っております。「臨床検査事業」は臓器移植及び造血幹細胞移植で必要とされる各種の臨床検査を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	iPS細胞事業	臨床検査事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	368,779	51,299	420,078	—	420,078
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	368,779	51,299	420,078	—	420,078
セグメント利益	77,145	23,735	100,880	△93,741	7,139
セグメント資産	131,411	9,390	140,802	265,122	405,924
その他の項目					
減価償却費	8,396	726	9,122	1,348	10,471
補助金収入	47,610	—	47,610	—	47,610
受取利息	—	—	—	46	46
支払利息	—	—	—	234	234
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	7,190	—	7,190	555	7,745

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△93,741千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります
- (2) セグメント資産の調整額265,122千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、管理部門に係る資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額1,348千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産に係る減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額555千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産の増加であります。

2 セグメント利益は、損益計算書の経常利益と調整を行っております。

【関連情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
和研薬(株)	129,619	iPS細胞事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

①【財務諸表】

イ【貸借対照表】

(単位：千円)

		当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		246,675
売掛金		77,021
製品		31,167
仕掛品		4,013
原材料及び貯蔵品		2,164
前払費用		3,231
未収入金		970
その他		3,893
流動資産合計		369,137
固定資産		
有形固定資産		
建物		18,379
減価償却累計額		△7,344
建物（純額）		11,035
機械及び装置		10,490
減価償却累計額		△9,490
機械及び装置（純額）		999
工具、器具及び備品		95,818
減価償却累計額		△88,882
工具、器具及び備品（純額）		6,935
有形固定資産合計		18,969
無形固定資産		
特許権		5,399
ソフトウェア		863
その他		48
無形固定資産合計		6,311
投資その他の資産		
関係会社株式		5,506
敷金及び保証金		6,000
投資その他の資産合計		11,506
固定資産合計		36,787
資産合計		405,924

(単位：千円)

当事業年度
(平成25年3月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	37,825
未払金	12,357
未払費用	5,366
未払法人税等	3,034
未払消費税等	4,107
前受金	43
預り金	792
賞与引当金	2,820
流動負債合計	66,347
固定負債	
長期借入金	80,000
繰延税金負債	1,436
資産除去債務	6,579
固定負債合計	88,016
負債合計	154,364
純資産の部	
株主資本	
資本金	124,999
資本剰余金	
資本準備金	561,721
その他資本剰余金	446,722
資本剰余金合計	1,008,443
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	△881,882
利益剰余金合計	△881,882
株主資本合計	251,560
純資産合計	251,560
負債純資産合計	405,924

ロ【損益計算書】

(単位：千円)

当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	
売上高	
製品売上高	349,085
役務収益	70,992
売上高合計	420,078
売上原価	
製品期首たな卸高	30,162
当期製品製造原価	176,778
合計	206,940
製品他勘定振替高	※1 4,230
製品期末たな卸高	31,167
製品売上原価	※2 171,542
役務原価	23,065
支払ロイヤリティ	※3 1,702
売上原価合計	196,310
売上総利益	223,768
販売費及び一般管理費	
研究開発費	※4 115,319
その他の販売費及び一般管理費	※5 153,588
販売費及び一般管理費合計	268,908
営業損失(△)	△45,140
営業外収益	
受取利息	46
補助金収入	47,610
その他	4,883
営業外収益合計	52,539
営業外費用	
支払利息	234
その他	25
営業外費用合計	260
経常利益	7,139
税引前当期純利益	7,139
法人税、住民税及び事業税	1,571
法人税等調整額	△301
法人税等合計	1,269
当期純利益	5,869

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは主に飲料・食品を製造・販売しており、国内では当社及び当社の製造・販売子会社が、海外では各地域の現地法人がそれぞれ事業活動を展開しています。

したがって、当社グループの報告セグメントはエリア別で構成されており、「国内事業」「国際事業」の2つを報告セグメントとしています。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。セグメント間の内部売上高は第三者間取引価格に基づいています。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	国内	国際 (注) 4			
売上高					
外部顧客への売上高	688,796	303,364	992,160	—	992,160
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,207	1,207	△1,207	—
計	688,796	304,571	993,367	△1,207	992,160
セグメント利益 (注) 3	35,604	42,507	78,112	△19,665	58,446
セグメント資産	291,134	553,316	844,450	—	844,450
その他の項目					
減価償却費	27,591	8,978	36,569	—	36,569
のれん償却額	129	19,536	19,665	—	19,665
持分法適用会社への投資額	—	7,940	7,940	—	7,940
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	31,619	19,911	51,530	—	51,530

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない、のれん償却額です。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

（単位：百万円）

	国内	国際	合計
セグメント利益	35,604	42,507	78,112
減価償却費	27,591	8,978	36,569
EBITDA	63,195	51,486	114,682

EBITDAは、セグメント利益に減価償却費を加えた数値です。

4. 国際セグメント売上高、利益又は損失、EBITDAの内訳

国際セグメントを、現地法人グループの親会社の所在地別に分類した内訳は次のとおりです。

（単位：百万円）

	欧州	オセアニア	アジア	米州	国際計
売上高					
外部顧客への売上高	123,661	33,342	78,842	67,516	303,364
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,207	—	—	—	1,207
計	124,869	33,342	78,842	67,516	304,571
セグメント利益	24,450	5,077	6,229	6,750	42,507
減価償却費	3,479	824	2,125	2,549	8,978
EBITDA	27,929	5,901	8,355	9,300	51,486

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、飲料・食品事業を行う単一事業区分のため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

本邦以外の区分に属する主な国又は地域は、次のとおりです。

欧州・・・ヨーロッパ諸国

オセアニア・・・オセアニア諸国

アジア・・・東アジア、東南アジア

米州・・・北米

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	オセアニア	アジア	合計
668,580	131,219	55,809	37,743	893,353

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	欧州	オセアニア	アジア	米州	合計
148,865	28,196	10,355	10,485	17,149	215,052

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しています。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、飲料・食品事業を行う単一事業区分のため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

本邦以外の区分に属する主な国又は地域は、次のとおりです。

欧州・・・ヨーロッパ諸国

オセアニア・・・オセアニア諸国

アジア・・・東アジア、東南アジア

米州・・・北米

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	オセアニア	アジア	米州	合計
688,796	124,167	58,138	53,541	67,516	992,160

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	欧州	オセアニア	アジア	米州	合計
150,324	34,156	13,898	16,658	20,301	235,338

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社ではファッション通販サイト「ZOZOTOWN」の運営及びアパレルメーカー自らが運営するECサイトの支援を主な事業として行っております。また、当社の子会社である(株)クラウンジュエルでは高感度ファッションアイテムに特化したオークションサイト「CROWNJEWEL」を運営しております。

従って、当社グループは上記のセグメントから構成されており、「EC事業」、「オークション事業」の2つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社グループは、EC事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	EC事業	オークション 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	31,223,510	530,111	31,753,621	53,066	31,806,687	—	31,806,687
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,287	2,394	10,681	11,964	22,646	△22,646	—
計	31,231,797	532,505	31,764,302	65,031	31,829,333	△22,646	31,806,687
セグメント利益 又は損失 (△)	7,824,910	△15,376	7,809,534	4,740	7,814,275	△109,989	7,704,285
セグメント資産	22,249,643	317,650	22,567,294	—	22,567,294	641,123	23,208,418
その他の項目							
減価償却費	275,765	1,817	277,582	—	277,582	—	277,582
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	694,012	185	694,198	—	694,198	—	694,198

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、(株)クラウンジュエルの完全子会社である(株)シアターエイトが運営するアパレル商材の企画・販売事業を含んでおります。

なお「その他」に区分していた、(株)シアターエイトが運営するアパレル商材の企画・販売事業は、平成24年1月に(株)シアターエイトがオークション事業を展開する(株)クラウンジュエルに吸収合併されたことに伴い、第4四半期連結会計期間よりオークション事業に含めております。

(注2) セグメント利益の調整額△109,989千円には、セグメント間取引消去3,150千円、のれん償却額△113,139千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

「II 当連結会計年度 (報告セグメントの変更等に関する事項)」に記載の通りです。

II 当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは、EC事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前第3四半期連結累計期間まで報告セグメントに含まれない事業セグメントとして「その他」に区分していた㈱シアターエイトが運営するアパレル商材の企画・販売事業は、平成24年1月に㈱シアターエイトがオークション事業を展開する㈱クラウンジュエルに吸収合併されたことに伴い、前第4四半期連結会計期間よりオークション事業に含めております。

オークション事業については、平成24年11月に㈱クラウンジュエルが運営するオークションサイト「CROWN JEWEL」での販売を中止し、当社が運営する「ZOZOTOWN」内で新たに二次流通の事業として「ZOZOUSE」の名称で新規出店したことに伴い、従来オークション事業として区分していた二次流通に係る事業を当社の管理会計上、EC事業に集約いたしました。そのため、当社グループは当連結会計年度よりEC事業の単一セグメントに変更しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれんの発生益に関する情報】

該当事項はありません。

	F/S計上額	iPS細胞事業	臨床検査事業	全社	
売上高	420,078	368,779	51,299		a
うち特定販売先		129,619			
経常利益	7,139	77,145	23,735	△ 93,741	b
経常利益率	1.7%	20.9%	46.3%		c=b/a
減価償却費	10,471	8,396	726	1,348	d
のれん償却費	0	0	0	0	e
EBITDA	17,610	85,541	24,461	△ 92,393	f=c+d+e
総資産	405,924	131,411	9,390	265,122	g
うち固定資産	28,141	21,246	2,657	4,238	h (2012/3の数値で代替)
うちその他資産	377,782	110,165	6,733	260,884	i=g-h
総資産回転率	1.03	280.6%	546.3%		j=a/g
従業員数	27	20	4	3	
うち正規雇用	10	8	1	1	
うち臨時雇用	17	12	3	2	
一人当たり売上高	15,558	18,439	12,825		

	F/S計上額	iPS細胞事業	臨床検査事業	全社	
売上高					
製品売上高	349,085	349,085			製品関連をiPSと仮定
役務収益	70,992		70,992		役務収益を臨床検査と仮定
売上高	420,078	349,085	70,992	0	
セグメント売上高	420,078	368,779	51,299	0	
売上原価					
製品期首たな卸高	30,162	30,162			
当期製品製造原価					
材料費	146,498	146,498			
労務費	1,701	1,701			
外注加工費	26,134	26,134			
減価償却費	3,327	3,327			
その他(仕掛調整)	-883	-883			
他勘定振替	4,230	4,230			
製品期末たな卸高	31,167	31,167			
役務原価	23,065		23,065		
支払ロイヤリティ	1,702		1,702		
売上原価	196,310	171,542	24,767	0	
販管費					
研究開発費	115,319	115,319	0		「研究開発活動」より。臨床はゼロ
給与手当	32,897	26,318	3,290	3,290	期末正社員数で按分
人材派遣費	2,520	1,779	445	296	期末臨時社員数で按分
消耗品費	48,269	35,755	7,151	5,363	期末人員数で按分
地代家賃	7,882	5,839	1,168	876	〃
減価償却費	4,657	3,931	726		セグメント情報より
賞与引当金繰入額	1,466	1,086	217	163	期末人員数で按分
その他	55,898	41,406	8,281	6,211	〃
販管費合計	268,908	231,432	21,277	16,199	
営業外損益					
受取利息	46			46	
補助金収入	47,610	47,610			
その他(純額)	4,623			4,623	
営業外合計	268,908	47,610	0	4,669	
経常利益	7,139	13,415	5,255	-11,530	
セグメント利益	7,139	77,145	23,735	-93,741	